



# 営農NEWS



## 果樹（ナシ、カキ、リンゴ、ブドウなど）の果実を加害するチャバネアオカメムシの発生が多い状況です 今後、果樹園への飛来に十分注意してください

県内では、果樹（ナシ、カキ、リンゴ、ブドウなど）の果実を吸汁加害するカメムシ類としてチャバネアオカメムシ、クサギカメムシなどがあり、年次によりカメムシ類による被害果の発生が大きな問題となります。

チャバネアオカメムシは、雑木林などの落葉の下などにおいて成虫で越冬し、春先からはサクラやクワなどの実を餌として移動しますが、餌が足りないときなどに果樹類にも飛来して幼果などを吸汁加害します。本来は、6月下旬頃からヒノキやスギの球果を餌として成長し、7月～9月頃にかけて誕生する成虫も餌が豊富であればそこにとどまっていますが、成虫の量が多すぎたり、球果の量が少なかつたりすると餌を求めて果樹園等へ移動してきます。

この度、**県病害虫防除所から病害虫速報No.5が発表**（7月31日）されました。

これは、7月下旬現在、ナシ巡回調査圃場におけるカメムシ類の被害果率（本年0.4%、平年0.05%）が高く、さらに7月第5半旬現在、予察灯へのチャバネアオカメムシ誘殺数が、水戸市で平年より多く、かすみがうら市で平年よりやや多く、笠間市で平年並であったことから、

### 果樹園でチャバネアオカメムシの発生が多い状況です

**今後、カメムシ類の発生動向に注意して下さい** と呼びかけています。

本来の餌が足りなくなった場合、今後に果実が肥大するカキやリンゴの果樹園にも、成虫が飛来して果実を吸汁加害する恐れがありますので、常に園内を注意深く観察し、カメムシの侵入を確認したら早急に防除に努めてください。

#### 〈防除上の注意点〉

1. 多目的防災網（6mm目または9mmクロス目以下）を展張することで、カメムシ類の侵入抑制、被害軽減が図られます。
2. カメムシの活動は夜温が高いと活発となりますので、その翌朝に園内をよく観察し、飛来を確認したら活動が鈍い早朝（又は飛来の多い夕刻）に薬剤散布を行ってください。
3. 各薬剤とも直接虫体にかかれば殺虫効果は高く、効果の持続期間がネオニコチノイド系、合成ピレスロイド系の薬剤で5～10日程度とされています。
4. 防除薬剤は、果実の収穫前日数に注意して選択し、系統の異なる薬剤でローテーション散布してください。なお、散布の際は、園の周囲に飛散（ドリフト）しないよう十分な注意が必要です。

表1 果樹カメムシ類の主な防除薬剤

（令和2年8月3日現在）

薬剤名	ナシ	カキ	ブドウ	リンゴ	分類	参考防除例での記載状況
MR. ジョーカー水和剤	○	○		○	3A	ナシ、カキ、リンゴに記載あり
テルスターフロアブル	○	○		○		
ロディー水和剤	○	○		○		
スカウトフロアブル	○	○		○		
アグロスリン水和剤	○	○				
スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○	4A	カキ、リンゴに記載あり
アクタラ顆粒水溶剤	○	○		○		
ダントツ水溶剤	○	○	○	○		
アドマイヤー水和剤	○	○				ナシに記載あり
バリアード顆粒水和剤	○			○		
キラップフロアブル		○		○	2B	

注）分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040